

地域発・防災ラジオドラマ グループ名「つくば市ヘルパー事業所連絡会」 タイトル 「ホームヘルパーは災害最前線!!」

ナレーション（プロローグ）：かつさんは73歳の女性、要介護1 軽度の認知症と心臓に疾患がある。15階建てマンションの8階に一人暮らし。1年前まで北海道で夫と二人で暮らしてきたが、夫が亡くなったのを機につくばに住む息子が自分のマンションの近くに呼び寄せた。
平成22年11月1日17時15分。ヘルパーはいつものように台所で調理中、かつさんは居間のソファで洗濯物をたたんでいた。

ヘルパー森：「かつさくん、夕飯の食事一緒に作りませんか」・

（地震の音）

ヘルパー森：「きゃあ何？何？地震？ええっつはあはあ、あつガス！ガス止めるんだ！あつ、かつさんは？かつさん、かつさん」

かつさん：「ここだよ・・・」

（しばらく地震が続き、物が落ちて壊れる）

ヘルパー森：「ああ、かつさん、ソファから落ちちゃったんですね。大丈夫ですか？けがは？」

かつさん：「足、足が・・・痛いよ、痛いよ。」

ヘルパー森：「足？見せて下さい。出血はしていませんね。動かせますか？」

かつさん：「動かすと痛いよ。ねえ、マンション大丈夫？私たち崩れるんじゃないの？」

（どこからかガラスの割れる音などがする）

ヘルパー森：「かつさん、大丈夫！私がいるから。心配しないで。そうだ、事務所、事務所に電話してみますね。かつさん少し手を離しても良いですか。でもさっきの地震でつながらなかったらどうしよう。お願い電話つながって！」

ナレーション：地震が収まって、かつさんの状況を確認したヘルパーは、次に事業所に連絡を入れようと思いました。

ヘルパー大田：「はい、あすなるホームヘルプサービスです。」

ヘルパー森：「ああ大田さんですか？よかったです。」

ヘルパー大田：「森さん？大丈夫？無事なのね？もしもし、良く聞こえないけどかつさんも大丈夫？」

（管理者に大声で報告）

「西山管理者。森さんから連絡です。無事だそうです。」

西山管理者：「それじゃあ永井ヘルパー、後は落ち着いてお願いしますね。・・・はい、大田さん、森さんからね。こちらから家族に連絡すること、病状を確認。居るところの安全確認をするように伝えて。」

ヘルパー大田：「森さんわかった。管理者も私たちも出来ることはするから安心して、かつさんをお願いね。」

ヘルパー森：「私は大丈夫です。でもかつさんが、ソファァーから落ちて足を・・・もしもし・・・電話切れちゃった。どうしよう・・・」

かつさん：「電話通じないのか」

（この時ヘルパーの森さんはかつさんが心配しないように考えました。）

ヘルパー森：「大丈夫ですよ。電話繋がらなかったら、メールがありますから。電話が繋がらなくても、メールなら繋がると聞いてますからメールで連絡してみます。かつさん。足大丈夫ですか。」

（メールは事業所と息子さんにも送った）

ヘルパー森：「どうか、みんなにメールが届いて。」

(ドアをたたたく音)

大学生：「はあはあ、この階のものですけど、こちらにおばあちゃんいましたよね、おばあちゃん大丈夫ですか？」

ヘルパー森：「地震の時に足を痛めてしまつて・・・救急車を呼びたいんですが、電話が通じないんです。」

大学生：「そうですか。僕筑波大学の医学部の学生なんです。ここのおばあちゃんのこと知っていたので、気になって様子を見に来ました。おばあちゃんの様子を見てみましょうか」

ヘルパー森：「お願いします。かつさん、近くの方が心配して来てくれましたよ。よかったですね。」

かつさん：「あら、・・ありがとうございます。誰だったかしら。」

大学生：「何度かエレベーターでお話しましたよね。僕は筑波大学の医学部の学生です。大きな地震だったので、確か一人暮らして話してたので、心配になって来てみました。」

かつさん：「そうだったわね・・・ありがとうございます。ヘルパーさんもいてくれたし、あなたも来てくれて、安心したわ。足もそんなに痛くなくなつてみたい。」

ヘルパー森：「あつ、メールが来た。事業所からだわ。救急車はすぐに来られないらしいです。ケアマネさんが、近くの訪問看護ステーションの看護師にお願いして、様子を見に来てくれるって。この間の地域ケア会議で話しておいてよかったですね。」

ナレーション：かつさんが少し落ち着いた頃、ヘルパーは活動記録を見直し、かつさんの既往歴や気をつけることがあるかをもう一度確かめました。マニュアルがあることも思い出しました。

ヘルパー森：「かつさん、胸は苦しくない。」

かつさん：「さつき、学生さんが来て話しを聞いてもらったし、ここにいて大丈夫そうだから安心した。胸も苦しく無いよ。それより、ヘルパーさんは大丈夫なのかい。」

ヘルパー森：「大丈夫ですよ。かつさんが無事で良かったです。もう少しで看護師さんが来ると思うので待ちましょう。寒くないですか。」

かつさん：「今日は、ヘルパーさんが居てくれて本当によかった。ありがとう。」

ナレーション（エピソード）：この後、ヘルパーは看護師さんにかつさんをお願いして、次の利用者の所に安否確認に行きました。

訪問中のヘルパーは災害時に、利用者を1番目に助けることのできる存在です。でも、緊急時は動転してしまうものです。特に1人で活動するヘルパーはいざとなっても落ち着いて行動できるよう、緊急連絡表や災害時マニュアルを作り、訓練しておくことが大切です。

また、マンションなどの場合、ドアが開かなくなってしまうことやエレベーターが止まってしまうことも考えられます。その時の対応について、利用者や家族と話しておくことも大切です。ね。日ごろから関係機関はもちろんのこと、近所の人とコミュニケーションをとっておくことが災害時に大きな力になる事が分かりましたね。

事業所として、災害時に何が出来るか、大切なことは何かを、これを機会にみんなで考えてみましょう。

※茨城県の地域ケアシステムについて

地域ケアは、茨城県が平成6年から全国に先駆け、寝たきりの高齢者や障がい者を対象に、県独自の福祉施策として事業を開始しています。全市町村に地域ケアセンターと地域ケアコーディネーターが設置されています。

つくば市では、社会福祉協議会が事業を実施しています。